

乗雲

寺報
第75号

H21.5.25 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広蔵寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

ありがとうございます

広蔵寺住持 神田秀孝

山門で七堂伽藍の中心に向かって深くゆっくりと合掌一礼する。この毎日行う一時は、私が永平寺で安居をしていて「ホッ」とする一時の一つです。

廻廊掃除が終わったばかり、まだ参拝者の姿はない、晴れ渡った青空、毎朝の廻廊掃除による見事な拭き艶、そのピカピカの床に映る自分、溢れ落ちた汗、横板に取り残された雑巾の糸くず、毎日変わらない一日のうちの「コマ」の中で、両手一杯に自然を頂いて合掌一礼する。その瞬間こそ思います。「ありがとうございます」と。この「ホッ」とすることが出来る一時は、自分だけの力で成り立っているではありません。

永平寺での生活は、鐘、木版、雲版、太鼓、魚鼓などの鳴らし物が、毎日決まった時間に、決まっ

た回数打ち鳴らされます。それにより一日が流れて行きます。坐禅、諷経、飯台、作務、内講、他にもたくさんある永平寺の行持は、多くの修行僧、従業員さん、家族、外部の関係のある方の協力によって絶えず流れ続けています。周りの方の息づかいを感じる距離で安居させて頂いて、今の私の存在も多くの方の支えで成り立っているのだと実感しています。



今から二年前の三月八日、平成十九年度の七番上山として、私は山門頭に並びました。山門の中から客行和尚さんは、「今あなた達がここに立ってるのは、周りの人たちの支えがあったから立つことが出来るのだ。」と言われました。地藏

院に拜宿させて頂く前日、夕方に門前町に師匠に送ってもらいました。私を見送り、師匠はすぐに帰ってしまいました。雪が降り積もり、暗闇の中に取り残された私は、「うーん。」と何とも言えない気分になりました。これから、新天地で、将来に向かって頑張っていこうというのに、どうしても感じることが今となって思い出されます。

今、私は監行という配役を頂いております。監院寮では、多くの貴重な法要、行持に深く関わることができ、本当に感謝しております。また監院老師を始めとする役寮さん、外から来られる御寺院様と接する機会も多く頂き、その時その時を無駄にしないように努めております。

今、私が山門中心に向かい合掌一礼している後ろでは、新たな上山者が永平寺の門と叩いています。二年前の三月八日、この日の気持ちを決して忘れることなく、永平寺の美しい自然、素晴らしい環境、仏法の流れに溶け込んでいきたい。

(永平寺「傘松」三月号より転載)

檀信徒各位

法要のご案内

恒例の大殿若法要と檀信徒先祖供養を左記日程にて修行いたします。大勢の和尚様方を迎えての年に一度の大法要です。皆様のご参集をお待ちいたしております。

期日 六月二十日

時間 午前十時法要開始

内容

大殿若祈禱法要

(先住忌)

十八世三回忌、十七世五十回忌

(寺族忌)

十八世寺族七回忌

檀信徒先祖供養

説齋

* 祈禱料はお志をお願いします。

* 輪袈裟、数珠ご持参下さい。

* 粗飯(倉食)を用意しています。

* 当日は混み合いますので早めに受付をお願いします。

折り込み案内ご覧下さい)